

国産ワインのはじまり！

# 甲州ワインの歴史を見てみよう

解説書



## 歴史編 (ワークシートP.1~P.2)

### ● 甲州ぶどうについて

甲州と呼ばれるブドウ（甲州葡萄）は日本最古の品種で、日本の白ワインの仕込みで最も多く使われています。



帰国後初めて醸造した日本ワイン。明治12（1879）年産。

### ● 宮崎光太郎の経営手腕

龍憲とともに同じ会社の販売部に居た宮崎は、大日本山梨葡萄酒会社の醸造設備などを譲り受け、「甲斐産葡萄酒醸造場」を新設しました。ワインの販路を東京に求め、ワイン販売の専門店「甲斐産商店（後の大黒葡萄酒）」をオープンしました。

しかし業績に好転の兆しは見え、明治23（1890）年、宮崎は龍憲と別れ独立。宮崎は庶民にワインが馴染みが無かった時代、現在の「宮光園」を設立した明治25（1892）年に「宮内省御用達」を受けたり、本格ワインは「大黒天印」、甘味ブドウ酒は「エビ葡萄酒」、滋養ブドウ酒は「滋養帝国ブドウ酒」のブランド名で売り出すなど販路を拡大しました。

またブドウ狩りとワイン工場の見学という観光スタイルを考案。宮光園には迎賓館の機能もあり、多くの皇族や著名人が訪れ、ブドウ狩り体験ツアーなども実施しました。

### ● 資料館の機能をはたす宮光園の主屋

現在主屋の2階には、皇族や著名人の名の記された芳名帳や帳簿が所蔵されています。また、主屋の修理中に35mmの映画フィルムが発見され、大正時代のブドウ栽培やワイン醸造、観光ブドウ園などの様子が記録されています。



主屋 2階の  
展示室



主屋

QRコードから、ワインが醸成される時の気泡の音が聞こえます。ワイン樽のある白蔵（現在は日本遺産ビジターセンター）の地下で、ワインの醸成をイメージしながら聞いてみましょう。



白蔵(地下)

### ● 龍憲セラー

龍憲セラーの入口から入って天井を見ると古い新聞紙が貼られているのが見ることができます。当時は、コンクリートと型枠を剥離するために新聞紙が使われていました。VRで確認したり、現地で天井を見てみてください。

\* 足元には気をつけてください。



龍憲セラー

## 解答例

《質問①》 宮崎光太郎さんはどんな人ですか。

答えの例：宮光園を作った人／国産ワインを東京などに広めた人／龍憲セラーを建てた人など

《質問②》 甲州市と牛久市で、同じ年にあった出来事を線でつなぎましょう。

- ①大日本山梨葡萄酒会社解散、甲斐産葡萄酒誕生 — ③ 蜂印香鼠葡萄酒大ヒット 明治19年(1886)
- ②宮崎光太郎、ブドウ栽培者一同から感謝状 — ② 神谷伝兵衛、神谷葡萄園にする 明治30年(1897)
- 土地を購入
- ③中央線開通（甲府まで） — ① 牛久醸造場（牛久シャトー）創業 明治36年(1903)



## 収穫・醸造編 (ワークシートP.3～P.4)



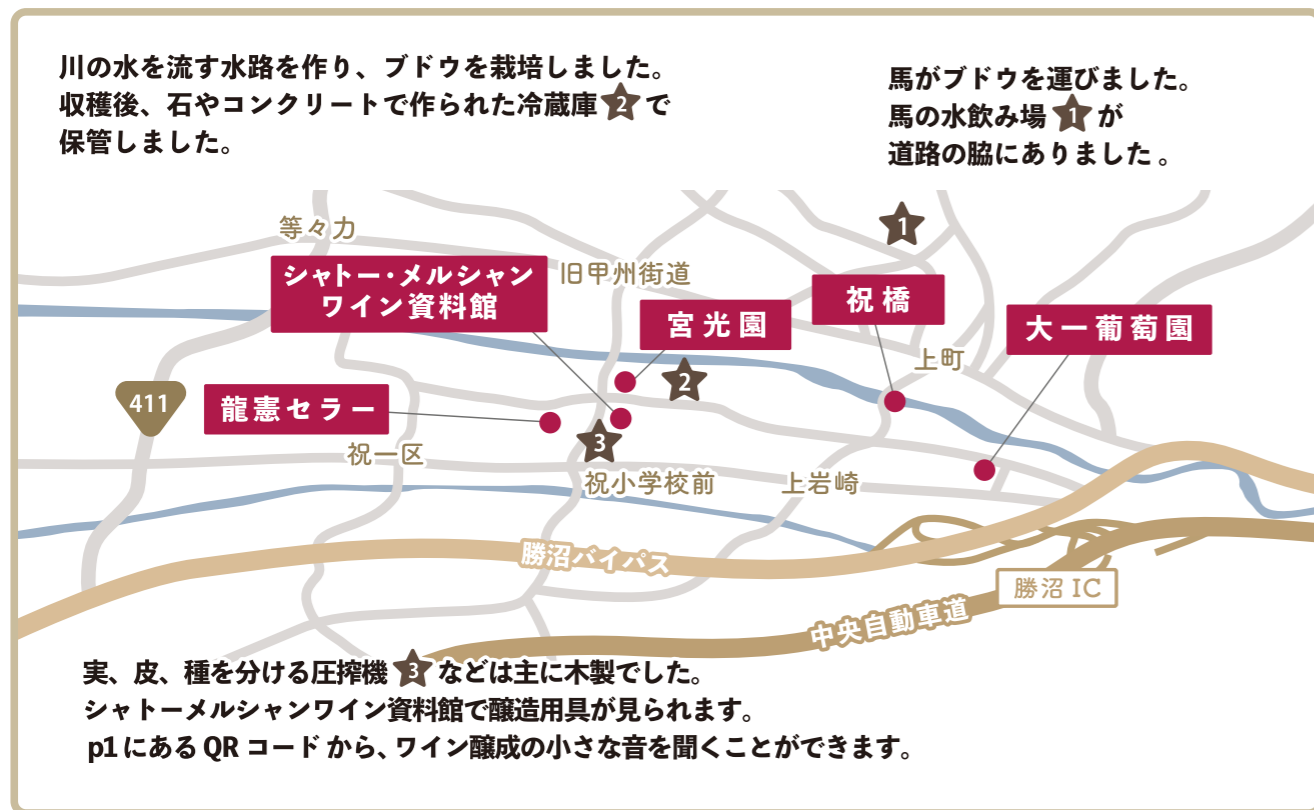
### ● ワインの作り方、特徴 / 明治期と現代の比較

設備や技術は進化していますが、収穫から瓶詰までの工程は大きな違いはありません。現在の「発酵」の工程では、白ワインは木桶ではなく樽、または温度管理ができるステンレスタンクへ果汁を移し発酵しています。

複雑さを付与するために「樽育成」の工程があります。一部の赤ワインは、「瓶詰」の工程で更に長く熟成させることで、調和や熟成感をより深めています。

### ● 甲州ワインをつくる音源に着目し、耳を澄ましてみましょう

宮光園内にある「むかしカメラ (QR)」で当時のブドウ作りの様子をのぞいてみましょう。



#### 解答例



《質問③》ワインを作るためには、どのような気候がよいのでしょうか？

答えの例：寒暖差が激しく、雨が少ない

《質問④》人物、建造物、ワインの作り方など学んだ中で、良いと思ったものは何ですか。その理由も具体的に書いてください。

答えの例：宮崎光太郎（理由：日本人の口に合わなかったワインを飲みやすくしたから）／馬の水飲み場（理由：馬がたくさん働けるような工夫だと思うから）／ワインのじょうぞうの音（理由：なかなか聞けないし面白いから）／白蔵（理由：ワインだるが今でも残っていて、びっくりしたから など

## ● 甲州市のワイン作りと日本遺産を知る解説資料



### マンガ 日本ワイン 140 年史

大正元年にワイナリー「宮光園」を開設し、甲州市をワインの一大産地へ押し上げた宮崎光太郎などが登場し、明治時代以降の市内の日本ワイン醸造の歴史を解説しています。



### 日本遺産 日本ワイン140年史 パンフレット

日本遺産の構成に含まれる、ワインに関連した市内の文化財などを紹介するパンフレットです。



ライブラリー：<https://japan-wine-culture.jp/download/list/>

### ● 動画による解説資料

公式：ワイン文化日本遺産協議会 YouTube チャンネル

牛久市(茨城県)と甲州市(山梨県)共同による「日本ワイン140年史 ~国産ブドウで醸造する和文化の結晶~」に関する日本遺産関連事業について発信します!



## column

### 甲州・勝沼と茨城県牛久との違い

一面に広がるブドウ畑、文化財になっている昔の和風の建物、沢山のワイナリーが共存する風景は甲州特有のもので、和風の農家の様な建物は、昭和中期頃まで行われていた養蚕業の名残です。牛久シャトーの、ブドウ栽培からワイン出荷までを一貫して行っていた西洋風で大きな建物のある風景とは、違う印象を与えます。

風土を活かし農家との共存を大切に甲州と、本場フランスボルドーの最先端技術を活かし大量生産を実現した牛久。両者の特徴の違いについても話し合ってみましょう。

## ● 甲州のワイン造りを学習できる施設

### 宮光園（甲州市）

宮光園は宮崎光太郎が創業した宮崎葡萄酒醸造場と観光葡萄園の総称です。明治10年(1877)祝村下岩崎(現甲州市勝沼町下岩崎)に設立されたわが国初の民間ワイン醸造会社である大日本山梨葡萄酒会社が明治19年(1886)に解散した後、醸造器具等一切を引き継いで、フランスでワイン造りを学んだ土屋龍憲とともに操業を開始しました。

宮光園には、当時のワイン醸造や皇族の行啓、行幸の様子がわかる貴重な写真や、観光葡萄園に関する数多くの資料などを展示しています。白蔵には日本遺産を紹介するビジターセンターが設置されています。



**所在地：**甲州市勝沼町下岩崎1741番地観覧時間

**営業時間：**午前9時～午後4時30分(受付は午後4時まで)

※令和4年1月29日(土)から当面の間午前10時から午後4時までの観覧となります。

**休館日：**火曜日、年末年始(12月28日～1月4日)

**観覧料：**

	個人	団体 (20人以上)
大人 (20歳以上/学生を除く)	200円	100円
子ども (未就学児を除く)	100円	50円

### シャトー・メルシャン ワイン資料館（メルシャン株式会社）

1904年に建てられた宮崎第二醸造場を元にした建物で、現在はワイン資料館として利用されています。宮崎第一醸造場が解体されて遺構のみとなってしまった現在、現存する日本最古の木造ワイン醸造場となりました。「山梨県指定有形文化財」「経済産業省近代化産業遺産」にも指定されています。

資料館内部では日本ワインの誕生・変遷とともにメルシャン株式会社の歴史を紹介しているほか、明治期に実際にこの場所で使われていた醸造器具の展示、今日のメルシャン株式会社の礎となる先人たちの軌跡・功績、ブドウ産地なども紹介しています。



**所在地：**甲州市勝沼町下岩崎1425-1

**営業時間：**通年 9:30～16:30

**休館日：**火曜日 及び年末年始

**入場料：**無料

**TEL：**0553-44-1011

**Web：**<https://www.chateaumercian.com/>



日本遺産 日本ワイン 140 年史  
～国産ブドウで醸造する和文化の結晶～  
ホームページ

<https://japan-wine-culture.jp/>

牛久市と甲州市の日本遺産「日本ワイン140年史 国産ブドウで醸造する和文化の結晶」のストーリーや構成文化財を紹介するホームページ

